

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.37 (通巻 41 号)

平成22年 1月21日発行

【目 次】

- こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【40】…………… 1
「五・一五事件のこと」—リアルな情報としての新聞記事
- 市町村のみなさんからの発信 【26】…………… 2
「常連さんに助けられて」 苫小牧市立中央図書館 西保 里美 さん
- こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッカー— 【27】…………… 3
ネーミングのための外国語辞典
- Librarian's Box (ししょばこ) 【24】…………… 4
ネット版百科辞典のニューウェーブ
- 課員のつぶやき —日々の業務からの短信— 【24】…………… 5
我が家の“電腦生活”その後
- レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介 (2009年9月補遺~2009年12月分) …… 6
- News …………… 7
 - 1 松前町立図書館 リニューアルオープン(10/31)
 - 2 官民共同で「日本書籍検索制度提言協議会」を発足 (11/4)
 - 3 学校図書館研究大会 釧路市で開催 (11/5・6)
 - 4 当別こども図書館 優良読書グループ表彰受賞 (11/6)
 - 5 詩人小熊秀雄の手紙 旭川市中央図書館が保管 (11/19)
 - 6 しおりに感想を書き込み 感想を共有 (11/25)
 - 7 江別市情報図書館 元市長の蔵書 2000冊 貸出、閲覧 (12/2)
 - 8 マンガ雑誌のデジタル化について国立国会図書館来館調査を実施 (12/3・4)
 - 9 国立国会図書館 2~3年で収容スペースが限界に (12/7)
 - 10 札幌市中央図書館、道立図書館デジタルライブラリーを公開 (12/26、1/1)
 - 11 道立図書館、「図書館海援隊」に参加 (1/5)
- 編集後記 …………… 9



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【40】

「五・一五事件のこと」—リアルな情報としての新聞記事

質問が大まかな表現であることは、よくあることです。質問者は図書館をよく利用される方ですがちょっと漠然とした質問にはレファレンス・インタビューは丁寧に……。さて、今回は「五・一五事件について知りたい」というものです。

五・一五事件の資料となると、詳しく書かれている資料の存在がいくつも思い浮かびます。もう少し踏み込んで絞り込みたいところなのですが、「簡単に、どんなことが起こったかわかるものでいい」の一点張りでした。

歴史事典にある「五・一五事件」の説明でいいのかなと思いつつ、辛抱強くやりとりをしていきました。その中で犬養毅首相が暗殺された様子が知りたいということがわかってきました。

歴史的な考察はいいので、部屋のどの辺りで撃たれたのかなど、とにかく、そのときの状況が知りたかったそうです。そうすると、一般的な歴史書ではどこまで書かれているかしら、と逆に不安になってきました。また、「難しい説明はいい」と専門書は敬遠される人なので、どの資料がいいのかと思案に促していると、うまい具合にヒントになることを言ってくれました。

「三面記事みたいなのでいいんだ」……五・一五事件の三面記事？

その言葉でスーッと道が開けました。

当時の新聞であれば、事件の様子を詳細に客観的に伝えているでしょう。

最初は当時の新聞なんて、思い浮かびませんでした。過去の新聞記事を探すのであれば、使うツールは決まっています。

『昭和ニュース事典 第3巻』（昭和ニュース事典編纂委員会、毎日コミュニケーションズ編 毎日コミュニケーションズ 1991 210.7/SH/3）を引きますと、昭和7年5月15日号外の第一報からいろいろとありました。

その中で昭和7年5月27日中外商業（夕刊）「終始気丈だった犬養首相—官邸発表」がもっとも詳しく襲撃の状況を伝えていました。奥の居間で休んでいた所に闖入者たちがやってきて、その後客間に移動した後に、撃たれたそうです。銃弾は右こめかみと左鼻腔に当たったことなど、そのときの状況が生々しく伝わってきます。

「話せばわかる」という有名な言葉が見出しになった別の記事（昭和7年5月16日中外商業）や第一報の号外を含め、質問者には資料を提供しました。

補足に国史大辞典を調べましたが、襲撃の状況自体はそれほど詳しく書かれていませんでした。他の図書資料も同様でした。

関連記事とあわせて当時の新聞記事を見てみますと、新聞が伝えていたものは、私が認識している五・一五事件とは違うように感じました。新聞は生の情報を切り取ったもの。それを保存していくことが将来的に大切だと思った事例でした。

<参考資料>

明治ニュース事典	全8巻+総索引	毎日コミュニケーションズ 1983-1986	(参考 210.6/ME/)
大正ニュース事典	全7巻+総索引	毎日コミュニケーションズ 1986-1989	(参考 210.69/TA/)
昭和ニュース事典	全8巻+総索引	毎日コミュニケーションズ 1990-1994	(参考 210.7/SH/)

市町村のみなさんからの発信 【26】

「常連さんに助けられて」

苫小牧市立中央図書館 西保 里美さん

先日、道立図書館での一日レファレンス体験研修を終え、ホームグラウンドに戻りほっと一息ついたところで参考調査課の方から原稿依頼を頂きました。さすが道立、気を抜くことは許さないらしい…と、気を引き締め直して今回の原稿を書かせていただきます。

当館は2階に参考資料室と郷土資料室が一体となった部屋があり、1階にある一般資料の閲覧室からは独立して存在しています。部屋の性格上、郷土資料に関するレファレンスも多いのですが、ここで助けられるのが常連さんの存在です。

例えば、お客さんへのレファレンス・インタビュー。それを小耳にはさんだ常連さんが「そういう話だったら〇〇さんが詳しいよ」とか、「そうそう、あの頃ね〜…」という風に、よい感じで話が進んでいきます。その間に私は端末を叩き、書架をめくり、いくつかの資料をご用意してお客さんの心がこちらに戻ってくるのを待ちます。端で聞いていても、「そうだったのか…」と思ったり「そうか、その手もあったか」と検索範囲を広げたり、私にとっても勉強になることが多いのです。

常連さんの合いの手は、より深いレファレンスを実践するとともに、私たちの心理的プレッシャーを軽くしてくれるものでもあります。目の前に答えを待っているお客さんがいてじっと手元を見られていると、どんなに落ち着いているつもりでも焦りやミスが生じ、えいっと、投げつけるようなレファレンスになってしまうことがあります（私だけでしょうか？）。そもそも、そこが未熟な証拠なのですが、常連さんは彼らの心をその知識と話術で私から逸らし、平静な心を取り戻すチャンスを与えてくれるのです。今回はそんな常連さんに助けられたレファレンスをご紹介します。

Q1. 市内にしだれ桜が有名なところはありますか？

これは、写真が趣味のお客さんから、「そういえば…」と、聞かれたことです。このときは、市内の桜を特集したローカル雑誌をご紹介しましたが、しだれ桜が載っていないので、なんだか物足りない。そこで、その後やって来た別の常連Aさんに尋ねてみたところ、お友達の樹木医の方に聞いて下さり、いくつか挙げて頂いたものを、後日お伝えしました。さらにその何日か後には、質問をされた方から、教えてもらった場所で撮ったという可愛らしい、しだれ桜の写真をいただきました。

Q2. 昭和25年にあった鉄道事故の写真が見たい

日付がはっきりしていたので、新聞にあたってみましたが写真の掲載がなく市史や事件史などでの対応となりました。そのとき、たまたま居合わせた常連Bさんが、かつて自分が編纂に携わった市内の病院の記念誌にその写真を使ったよ、とのこと。見てみると確かに事故の様子の写真が掲載されていました。列車事故から「市内／道内の歴史」「鉄道・交通史」「新聞」などは頭に浮かびましたが、「病院史」までは言われるまで思い付きませんでした。

このように、職員同士で助け合うことはもちろん、ときにはお客さんにまで助けを求めながら当館では日々レファレンスに励んでいます。こういうとき、図書館にとって、資料と職員、さらにはお客さん一人ひとりが、大事な大事なレファレンスツールなんだなあ、と強く思われます。

こんなのあります —いちおしレファレンス・ブック— 【27】

ネーミングのための外国語辞典

作品名や商品名、個人的なペンネームからペットの名前まで、ネーミング(名付け)に外国語を使うことは珍しくなくなっています。今回はそのような外国語を使ったネーミングに便利な、各国の単語を比較することのできる辞典をご紹介します。また、雑学辞典として各国の言葉の類似性や語源等も楽しむこともできます。

『最新ヒット商品をつくるネーミング辞典 8か国語対照 第2版』 学研 2000.11
(請求記号：801.3/HI)

ヒット商品売り出しのためのネーミング用キーワード約3,500種を、9つの分野別に配列。それぞれ、英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ラテン語・ギリシャ語・ロシア語の8か国語に対照されて商會されています。50音順総索引あり。巻末には、命名法の応用テクニック「もっとよい名前にするネーミングマニュアル」も付録しています。

※例として、「図書館」と「本」が8か国語でどのようになっているかは下の表をご覧ください。

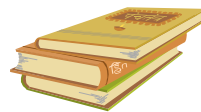
『新版ヒット商品をつくるネーミング辞典 Part2 6か国語対照』 学研 2004.1
(請求記号：801.3/HI/2)

上記の『最新ヒット商品をつくるネーミング辞典』の姉妹版。英語の他、中国語、韓国語、オランダ語、ポルトガル語、アラビア語の6か国語を9つの分野別に約2,550種を収録しています。50音順の総索引あり。命名法を「自然語・造語」で分類、解説した『もっとよい名前にするネーミングマニュアル PART2』もあります。

『幻想ネーミング辞典』 新紀元社 2009.9 (請求記号：801.3/G)

1,200種類以上のネーミングの読み方と綴りを10ヶ国語と8つのカテゴリー(時間・位置・数・自然・人間・社会・状態・性質)で収録した辞典。

五十音順索引に加えて、10ヶ国語でのカタカナ読みからひける逆引き索引があります。「破壊」「反逆者」等のマイナスイメージの例も多数収録しているのが特徴。また、各国の言葉の類似性や語源等を楽しむ雑学辞典としても使えます。



※8か国語で見る「図書館」と「本」

	図書館		本、書籍	
英語	ライブラリー	library	ブック	book
ドイツ語	ビブリオテーク	Bibliothek	ブーホ	Buch
フランス語	ビブリオテーク	bibliothèque	リーヴル	livre
イタリア語	ビブリオテカー	biblioteca	リブロ	liblo
スペイン語	ビブリオテカー	biblioteca	リーブロ	libro
ラテン語	ビブリオテカー	bibliotheca	リベル	liber
ギリシャ語	ビブリオテケー	βιβλιοθήκη	ビブロス	βιβλος
ロシア語	ビブリアチエーカ	библиотека	クニーガ	книга

『最新ヒット商品をつくるネーミング辞典 第2版』(学研 2000.11)より

Librarian's Box (ししょぼ) 【24】

ネット版百科辞典のニューウェーブ

“司書”といっても、全ての図書内容を把握している訳ではありませんから、レファレンスが寄せられると、余裕の笑みを浮かべつつ、必死に話を合わせながらキーワードや要点を聞き取り、必要としている回答形式はどんなものか、質問の背景なども訊いておこう、といった作業を進めます。(実はこの背景の方が、メインの質問だったりすることもよくありますね)

次に必要となるのが予備調査です。質問には、質問者の一面的な思い込みや推論、偏見があることがありますから(質問を受ける図書館員の側にもありますね)、調べるためにはまず、質問の内容や背景の分析・調べ方などの周辺の知識をかき集めておくことが回答への近道(王道)となるためです。

今回紹介するのは、実際の資料(情報)調査に取り掛かる前に予備知識をかき集める際に使うネット版の百科辞典です。

ネットの百科事典というと“wikipedia”(http://ja.wikipedia.org/)をまず思い浮かべますが、先日、新聞にもよく登場する「セーフガード」という関税関連の用語がヒットしなかったことに驚きました。編纂作業を経る図書版の事典との違いとはいえ、“網羅的”との幻想を抱いていた自分に二度ショックを受けた思いでした。

そこで、サイト内の収録数よりも、サイト自体を多くすればヒットする確率は増えるはず、ということでオススメするのが次のサイトです。複数のサイトの辞書や用語集を一度に検索して表示するので、“統合型オンライン辞書サービス”とも呼ばれています。

◆ Weblio 辞書 (http://www.weblio.jp/) 運営会社：ウェブリオ(株)

「Weblio」は、辞書サイトに特化した登録型のポータルサイト。yahooのような使いやすいTOP画面を持ち、登録されているサイトは6月の時点で510サイトに上ります。使い方は検索窓に調べたい言葉を入れると、ヒットした用語と用語説明、それから辞書サイトへのハイパーリンクが表示されます。

Weblioでは、類似のサイトを増やすことよりも、幅広く専門用語サイトを増やす運用方針を持ち、「どのようなキーワードにも、一回の検索で、最も適切な情報を提供できる情報検索サービス」を目指しているため、競艇用語サイトの「まくり差し」なんていう専門用語?も一発で引くことができます。ハイパーリンクから専門サイトを探し出すことや、「業界用語」「生活」といった19のカテゴリーから辞書サイト自体を探す際にも有効です。

◆ 辞典横断検索 Metapedia (http://metapedia.jp/) 運営会社：(株)インセプト

用語辞書を公開している550のサイトを73のカテゴリー別に公開しています。トップ画面は虚飾を廃し、いきなりカテゴリー別に収録サイトの一覧が目に飛び込んできます。もちろん検索方法は、検索窓に用語を入力するだけでOKです。

ここ数年、Q&Aサイトの横断検索など、増えすぎたネット情報を使いやすくしようという検索サイトが現れてきています。こうしたサイトのネガティブな利用法として、横断検索サイトの一覧表示を利用した複数サイトの比較が挙げられます。ネット利用で必ず問題となる信頼性を少しでも補う一つの方法として、用語解説の内容比較や相互補完を行うことができる利点がこうしたサイトにはあります。

課員のつぶやき — 日々の業務からの短信 — 【24】

我が家の“電腦生活”その後

いささか所帯染みた“つぶやき”で恐縮なのですが、9年前の本欄※で、我が家のインターネット元年を報告したことがありました。と言っても、主体は我が国のインターネット普及率の状況と図書館利用者の意識の変化（少々オーバーか）に触れたもので、後段で、子や妻にせがまれてパソコンを購入することになった顛末を書いたものでした。

今回は、このとき購入したパソコンの現在（末路か）を書きます。

当時中学生だった息子も大学3年。大学入学時に専用のパソコンを買って、今では当然ながら、相当のパソコンオタク生活を送っているのですが、それ以前にも、私が仕事用に使っていたパソコンを家庭に置くようになり、この頃から、我が家のデスク・トップ（ウインドウズ・ミレニアムエディション搭載）は徐々に出番を奪われ、居間の一等地に置かれたまま打ち捨てられていたのです。私としては、多少お金をかけてでも彼女（彼氏？）を蘇らせられないかと貧乏くさくも思っており、この正月休み何年ぶりかに電源を入れてみると、システムが落ちていることもなく正常に立ち上がるのでした。だがしかし、ついに処分することを決断しました。息子いわく、「ミレニアムは痛い子（娘？）」。どうにもならないと言うほどのことらしいのです。かくして、彼女は今、押し入れに積み上げられてリサイクルの道にのせられるのを待つ身となりました。

さて、総務省の「通信利用動向調査」によれば、2009年1月時点での国内のインターネット利用者数は推計9,091万人、調査開始以来初めて9,000万人を超えたそうです。また、パソコンの普及率は75.3%となっています。9年前に紹介した数字は、ネット利用者が2,260万人、普及率は26.4%でした。図書館も利用者も、インターネットの影響を大いに受けているのですが、将来の姿が見えないな、と思うこの頃です。（S記）

※「課員のつぶやき ③」JDo-Re No.2(通巻第6号 平成13年8月10日発行号)に掲載。

システム更新のお知らせ

～道立図書館の情報システムが新しくなりました～

1月から運用を開始した図書館システムでは図書館専用のポータルサイトが新たに登場し、使い勝手の向上が図られました。みなさん使われてみて、いかがでしたでしょうか？ということで、市町村からの声について業務課担当のKさんに話を訊いてみました。

以前に比べて、FAX印刷用紙が出せるようになった、画面がキレイになった等々の好評を博す声が寄せられる一方、ポータル画面への最初のログインの入力方法を教えてといった問い合わせや、「やっちゃった。どうしよう？」といった予約のキャンセル方法に関する問い合わせも寄せられているとのこと。

今度のシステムでは、市町村相互で使える伝言板や共有ファイルも設けられているので、さまざまな意見を伺いながら、利用方法の充実を図っていきたいとのこと。

みなさまからのご意見や活用法をどしどしお寄せくださるようお願いいたします。

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2009年9月補遺～2009年12月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館 NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 れふあれんす三題噺(その162) 市川市中央図書館の巻 転換期の図書館とレファレンスサービス/福田雅人 『図書館雑誌』 日本図書館協会 103(9)(通巻1030号) [2009.9] p. 650～651
- 2 レファレンスツール紹介(16) 中国の映画について調べる 『アジア情報室通報』 国立国会図書館 7(3) [2009.9] p. 18～19
- 3 費用ゼロでもできるWebサービス——ゆうき図書館の事例から(特集 ホームページ&そこから広がる非来館型サービス)/笹沼崇 『みんなの図書館』 教育史料出版会/図書館問題研究会編 389 [2009.9] p. 8～15
- 4 ホームページからみる医学・健康情報——HPから思うこと(特集 ホームページ&そこから広がる非来館型サービス)/小林順子 『みんなの図書館』 教育史料出版会/図書館問題研究会編 389 [2009.9] p. 16～21
- 5 れふあれんす三題噺(その163) 横浜市中心図書館の巻 司書の底チカラ——横浜開港150周年記念と課題解決サービス/加納邦子;吉田薫;真栄田久恵 『図書館雑誌』 日本図書館協会 103(10)(通巻1031号) [2009.10] p. 704～705
- 6 高田高史のレファレンスひろば(その13) 「正岡子規が好きだった食べものには、どんなものがあるか」など/高田高史 『あうる』 図書館の学校/図書館の学校機関誌事業委員会編 (91) [2009.10・11] p. 44～47
- 7 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ25) 世界史/大串夏身 『あうる』 図書館の学校/図書館の学校機関誌事業委員会編 (91) [2009.10・11] p. 48～51
- 8 れふあれんす三題噺(その164) 国立国会図書館 科学技術・経済情報室の巻 国立国会図書館のビジネス支援と健康・医療情報提供——リサーチ・ナビを活用して/辰巳公一;坂尻貢市 『図書館雑誌』 日本図書館協会 103(11)(通巻1032号) [2009.11] p. 778～779
- 9 北から南から 公共図書館員にも医学図書館員にも役立つ「Web患者図書館」/菊池佑 『図書館雑誌』 日本図書館協会 103(11)(通巻1032号) [2009.11] p. 790～791
- 10 レファレンスでの図書館員育成(特集 図書館員を育てる、図書館員が育つ)/斉藤文男 『みんなの図書館』 教育史料出版会/図書館問題研究会編 392 [2009.12] p. 16～24
- 11 れふあれんす三題噺(その165) 前橋こども図書館の巻「本との出会い」のレファレンス——子ども読書活動から 『図書館雑誌』 日本図書館協会 103(12)(通巻1033号) [2009.12] p. 834～835

NEWS

1 松前町立図書館 リニューアルオープン (10/31)

松前町立図書館が 町民総合センターの3階から1階にフロアを替えリニューアルしました。バリアフリー化した他、全体的にゆとりのスペースを広げ、利用者に好評だそうです。

<http://www.e-matsumae.com/koho/2111pdf/02-03.pdf>

2 官民共同で「日本書籍検索制度提言協議会」を発足 (11/4)

日本文芸家協会、国立国会図書館などが共同で「日本書籍検索制度提言協議会」を発足しました。国会図書館が進めている蔵書デジタル化を利用した日本独自の大規模な書籍検索システムを官民共同で作り、米検索大手Googleに対抗。

11/05 産経新聞 東京朝刊 21p「官民で書籍検索制度目指す」

3 学校図書館研究大会 釧路市で開催(11/5・6)

第38回北海道学校図書館研究大会釧路大会が行われ、5日は幼稚園から高校まで4カ所で学校図書館や本を活用した公開授業を、6日は柳田邦男さんの記念講演が行われました。

11/05 北海道新聞朝刊地方 23p 「あす柳田邦男さん講演」

11/07 北海道新聞朝刊地方 25p 「魅力ある学校図書館とは*全道研究大会に350人*釧路」

4 当別こども図書館 優良読書グループ表彰受賞 (11/6)

当別町の読書サークル「当別こども図書館」が、北海道読書推進運動協議会から優良読書グループの表彰を受けました。当別こども図書館は「本のある場所がほしい」という思いから、11人の母親たちによる手作りで活動を始め、昨年20周年を迎えました。古い民家を利用した私設図書館の開設や絵本の貸出、読み聞かせ会の開催、小学校での読書指導などが評価されての受賞です。

当別こども図書館ブログ <http://kodomotosyokan1987.blog17.fc2.com/>

11/07 北海道新聞朝刊地方 24p 「「こども図書館」優良賞*道読書推進協が表彰*当別」

5 詩人小熊秀雄の手紙、旭川市中央図書館が保管 (11/19)

旭川ゆかりの詩人小熊秀雄(1901~40年)の未公開書簡1通が旭川市中央図書館に残されていたことが、旭川在住の研究者の調査で判明しました。小熊と親交があった女性あての1通で、詩人らしい表現で女性を励ましており、「小熊の実直な人柄が分かる貴重な資料」だということです。

11/19 北海道新聞朝刊全道 31p 「詩人・小熊秀雄*実直さにじむ激励の手紙*旭川市中央図書館が保管*知人の女性に」

6 しおりに感想を書き込み 感想を共有 (11/25)

「子どもたちに本を共有する喜びを感じてほしい」と、イラストレーターのスギヤマカナヨさんが、本の感想を書き込める「しおり」を考案しました。読書の輪を広げる取組として、小学校の図書館などに提案している話題が掲載されていました。

11/25 毎日新聞 朝刊 11p「しおり:感想書き込める 図書館の本「共有」する喜び感じて」

7 江別市情報図書館 元市長の蔵書 2,000 冊 貸出、閲覧 (12/2)

元市長岡英雄氏の蔵書を収めた「岡英雄旧蔵資料」コーナーが設けられ、閲覧、貸出しが江別市情報図書館で始まりました。寄贈された本の内、800冊を整理、常に約400冊を収容しています。

12/02 北海道新聞朝刊地方 22p「岡・元市長の蔵書 2,000 冊 * 貸し出し、閲覧始まる * 情報図書館 * 貴重な記念誌や資料も」

8 マンガ雑誌デジタル化について国立国会図書館来館調査を実施 (12/3・4)

国会図書館職員がデジタル化事業の一環として、道立図書館へ来館し書庫内のマンガ雑誌を調査しました。

大規模な予算をかけて資料の電子化を進めている国会図書館ですが、9月18日にはデジタル化対象雑誌候補リストをインターネット上で公表しています。候補は 21,689 タイトル、「殖民公報」1～123号(明 34.4～大 10.12)(北海道庁)などの北海道に関係した雑誌が多数あります。詳しいタイトルはホームページ内にあるリストをご覧ください。

近い将来、デジタルライブラリーで懐かしのマンガや雑誌を読むことができるようになるかもしれませんね。

http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/digitization/all_digitization_list_2009.csv

9 国立国会図書館 2～3年で収容スペースが限界に (12/7)

国会図書館が、資料の収納スペースの問題に苦慮する様子を伝える記事が新聞に掲載されていました。2017年までは収容可能と想定していましたが、出版点数の増加や本の大型化などにより、あと2～3年が限界という状態。どこの図書館もが抱える書架スペースの問題、国会図書館も例外ではないようです。

12/07 毎日新聞 朝刊 9p「国会図書館：パンク寸前…新刊急増、本のサイズも大型化」

10 札幌市中央図書館、道立図書館デジタルライブラリーを公開 (12/26、1/1)

北海道関係の貴重な古文書、古地図などをデジタル化し、web上で公開するデジタルライブラリーを札幌市中央図書館は12/26、道立図書館は1/1に公開しました。共にPORTA(国立国会図書館デジタルアーカイブポータル)に連係、統合検索することができます。

PORTA(国立国会図書館デジタルアーカイブポータル) <http://porta.ndl.go.jp/>

11 道立図書館、「図書館海援隊」に参加 (1/5)

文部科学省が進める「図書館海援隊」プロジェクトに、北海道立図書館が参加しました。これは有志の公立図書館が関係部局と連携しながら課題解決支援サービスの一環として、貧困・困窮者に対する支援をするものです。かねてより課題解決のための支援サービスは重要な図書館機能のひとつとして推進してきましたが、これを機会により一層多くの方に知られ、使われるサービスになることを期待します。

参加自治体はほか、秋田県、東京都、神奈川県、大阪市、鳥取県、福岡県小郡市。

01/07 日本経済新聞 夕刊 p17「7自治体連携、「図書館海援隊」を結成」

文部科学省 HP http://www.mext.go.jp/a_menu/01_l.htm

「図書館・公民館海援隊」プロジェクト http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kaientai/1288450.htm

編集後記

- ◇ これが刊行されているのは新年ということで…今年もよろしくお願いします。新年ということは、道立図書館のシステムも一新されていることで、しばらくは試行錯誤しそうです。(on)

- ◆ 新しく入った児童書のある事典では「薄型テレビ」や「カーナビゲーションシステム」などがありました。テレビはブラウン管ではなく、体温計は水銀ではなく、etc ゲーム機は「Will」と「PLAYSTATION3」の説明でした。副題が「身近なモノのしくみと歴史」なので、これが今時の子供の環境なのかとしみじみ思いました。時代と共にレファレンスツールに収録される言葉も移り変わっていくのですね。(や)。

- ◇ 全道図書館研究集会の講座「行列のできる講座とチラシの作り方」で先生がおっしゃっていました。「一般的に知られていない用語をチラシの見出しに使ってはいけません。例えばレファレンスという言葉・・・」。認知度 UP↑のために今年もがんばります。(た)

- ◆ 前号の編集後記でふれた「道立図書館おさんぽマップ」が、平成 22 年 1 月からの当館新ホームページにも掲載されることになりました。地図上のカメラマークをクリックするとエソリスの他、当館前庭の写真を見ることができるようになっています。当館 HP「こどものページ」内、または「交通案内」の「周辺地図」内に「おさんぽマップ」のリンクがありますので、ぜひ一度ご覧になってみてください。(T)

- ◇ 新しい情報システムの導入のたびに思うこと。年々進化する、フルカラーのマニュアル類やわかりやすい操作研修会の開催。どれもがわかりやすいものに変ってきているはずなのに、それなのに覚えられない！頭に入ってこない！。仕様書かマニュアルか判別できないような古い時代の汎用機マニュアルを首っ引きで調べていたあの頃の柔軟なアタマにはもうもどれない、ということですね。(へ)

- ◆ 新年を迎え、ますます寒さが募りますが、がんばらないと！・・・<S>



Do-Re(どうれ)の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の
略から名付けました。
しかしながら
“どれどれレファレンス”からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.37(通巻41号)

発行年月日 平成22年1月21日
編集 北海道立図書館参考調査課
発行 北海道立図書館
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
e-mail:sancho@library.pref.hokkaido.jp
